

／ ライフケアサポート情報誌 ／

# こもれび

K O M O R E B I

特集

済生会鹿児島地域福祉センター  
20年のあゆみ



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会  
済生会鹿児島地域福祉センター  
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号  
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252  
□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2017

vol.21

AUTUMN

# 済生会鹿児島地域福祉センター 創立20周年にあたって

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 鹿児島県済生会支部長  
済生会鹿児島地域福祉センター所長 吉田 紀子



中秋の候、皆様には益々お健やかに過ごしのことと存じます。

済生会鹿児島地域福祉センターは平成29年8月、創設20周年を迎えました。

人間でいえば成人式、これまで育てていただきました関係者の皆様方と利用者様およびご家族の皆様、また、この間当センターの発展に向けたゆまめご尽力をいただいた歴代の所長はじめ職員の皆様方に改めて深くお礼申し上げます。

済生会は明治44年、時の明治天皇の済生勅語に基づき設立されました。

社会に増えた困窮者に施薬救療の精神でその生を救おうと、恩賜財団済生会としてその活動が始まり、戦後社会福祉法人恩賜財団済生会と名称変更し、創立106年目の今日までに全国40都道府県に支部が創設されました。医療施設、福祉施設・事業所、公益事業等646が設置・展開され、医療保健福祉活動や生活困窮者支援事業等に携わる職員約58,686名が働く、日本最大の社会福祉法人として、「生活困窮者を濟う」、「医療で地域の生を守る」、「医療と福祉の一体的提供」を理念・目標に掲げ、活動しています。

鹿児島県済生会は昭和5年に鹿児島診療所の創設とともに創立され、88年目の現在、済生会鹿児島病院と同川内病院の2病院と、地域福祉・介護の拠点としての鹿児島地域福祉センターとを設置しています。

鹿児島県支部設立68年目、平成9年8月に特別養護老人ホーム高喜苑の開設を皮切りに、職員数34名でその歩みを始めた鹿児島地域福祉センターは、平成29年8月末現在、職員数182名となり、13の介護・福祉系施設及び居宅介護支援の各種事業所のほか、公設シルバーハウジングの運営支援など、提供サービスの種類・内容の充実と質の向上に努め、近年は地域包括ケア推進の拠点を目指し成長しつつあります。

この20年を振り返りますと、第一期：老人福祉事業体として活動した黎明期ともいえる当初3年間、第二期：平成12年介護保険法施行に伴い進化してきた期間 第三期：平成23年介護保険法改正にて位置付けられた今後の地域包括ケア構想を見据えながら地域社会の要請に応えるべくサービス体制の充実や地域づくりへの参画等を進めつつある期間と、常に地域社会の要請に対応しつつ前進してまいりました。

我が国においては1970年に高齢化率7.1%と高齢化社会に突入、1995年には高齢化率14%を超え、高齢社会となり、さらに2005年に21%を超え超高齢社会となり、2065年頃まで高齢化率の増加が続くと予測されています。

あまりに急速な高齢社会の進行に、1973年高度経済成長を背景にした老人医療無料化に始まった当初の高齢者政策は長続きせず、その後老人医療費高騰対策として老人保健法が制定され、さらに高齢者関連福祉施策の充実が強く要請される中、1989年長寿・福祉社会の実現を目指し、高齢者保健福祉10か年戦略（ゴールドプラン）が策定されました。措置制度の特別養護老人ホームのほか、在宅福祉サービスの推



進をめざしたホームヘルプサービス、デイサービスのいわゆる三点セットと呼ばれた高齢者福祉サービスが、地方自治体の老人保健福祉計画(ゴールドプラン)として基盤整備され、需要の急増に新ゴールドプラン、ゴールドプラン21として積み増しされていきました。

このような時代背景のもと、済生会鹿児島においても、社会福祉法人であるところから、医療のみではなく、福祉事業を展開すべきとの考えで、1997年、老人福祉の一環として、措置の受け皿としての特別養護老人ホームを開設し、さらに鹿児島市より受託のディサービスやホームヘルプ事業等を次々に開始しました。

社会福祉法人済生会の理念からして福祉制度としての展開は理にかなない、職員は使命感に燃えて福祉事業の発展に心血を注ぎました。

しかし、そのころ国ではすでに、急増する高齢者の社会的入院や医療費高騰などこれまでの措置としての老人福祉制度、老人保健制度では限界があるとして、高齢期の医療保健福祉課題を社会全体で支えていく仕組みが検討されており、間もなく保険原理による介護保険制度が創設・施行され、事業実施主体も公的機関から広く民間の法人や事業者の参入が図られることとなり、鹿児島県内・市内においても一気に事業所が増加し、当センターも第二期に入ります。

福祉原理による措置制度から、保険原理による契約制度である介護サービス事業、利用者から選ばれるサービスへの転換に伴う、価値観や手法の変化に戸惑いながらも、新たな事業展開に果敢に挑戦しつつ、職員たちは済生会の原点である使命感をおろそかにすることなく、社会福祉法人としての済生会の特色を出そうと追及していました。例えば、平成14年のケアハウス「シルバークラウド武岡台」の開設もその表れです。

デイサービスやホームヘルプステーションを併設し、福祉原理に基づきつつ、介護保険サービスも適切に外付けで活用し、入居者の福祉ニーズと安心に応える軽費老人ホームです。認知症高齢者のためのグループホームも開設し、困窮者の入所を重視するなど、福祉の理念のもとに介護保険事業を活用し、済生会らしい高齢者サービスに努めてまいりました。

一方で、特別養護老人ホームは定員が50床と少なく、希望される方々に入所を待っていただくことも多くなっていました。このころ国において、高齢者の住まいの確保が課題として「サービス付き高齢者向け住宅」制度が開始されたことは有り難いことでありました。

早速その整備を検討し、平成27年秋に全国済生会初のサービス付き高齢者向け住宅「なでしこの杜」を開設しました。入居の方々が安心して生活していただけるよう、「定期巡回・随時対応型訪問介護・看護」も併設し、医療が必要な場合は鹿児島病院の在宅診療支援体制を活用し、医療・介護・介護予防・生活支援という体制の整った「住まい」として、ご利用の方々に喜んでいただけています。第三期は地域包括ケア推進への貢献をめざし、すでに住まいの場「なでしこの杜」の提供体制構築、鹿児島病院との協働による医療福祉の提供、共に生きる地域づくりをめざした「地域包括ケア推進ボランティア」育成事業、地域の独居高齢者への生活相談等支援等の取り組みを開始しています。今後は、新たな時代の要請にあった形で、済生会の3つの使命を果たすべく、既存事業の提供体制を充実強化するとともに、鹿児島病院との一体的取り組みによる医療保健福祉の切れ目のないケア体制を構築し、地域と一層密着し、高齢者のみならず地域の困窮者すべてを対象者とし、「共に生きる地域づくり」の推進に貢献してまいります。今後とも皆様方のご支援とご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

# 済生会鹿児島地域福祉センター 20年のあゆみ

特別養護老人ホーム高喜苑を中核とした済生会鹿児島地域福祉センターが平成9年8月に開設して、今年で20年目を迎えました。関係者の皆様への感謝の意も込めてこれまでのあゆみを振り返りました。

## 誕生まで

平成5年当時鹿児島県済生会は、鹿児島病院と川内病院の2つの医療施設を運営していましたが、済生会は社会福祉法人であることから医療だけではなく、福祉施設の運営も行うことが使命であるとの思いから、特別養護老人ホームの設置を検討し始めました。これが平成5年度であり、平成6年8月に鹿児島県支部理事会において建築計画案が承認され、平成8年9月24日に着工、翌年6月20日に鹿児島市小野町(現在は武岡)に、念願であった特別養護老人ホーム高喜苑を中核とする済生会鹿児島地域福祉センターが鹿児島病院を母胎として竣工しました。当時、太陽光発電を装備した環境に配慮した最先端の建物として注目を集めました



改修前の建物



竣工当時の高喜苑

8月1日から職員34名体制で事業を開始し、初日は6名の入居者さんを受け入れました。

「高喜苑」の名称は、当時済生会の総裁であられました高松宮喜久子妃殿下より「高」と「喜」の2文字を頂戴いたしました。

## 事業拡大期

開設後、鹿児島病院で運営していた訪問看護ステーションをセンターへ移管するとともに、鹿児島市の委託事業を中心にデイサービス、ホームヘルプ事業、訪問入浴、訪問給食事業等、在宅系の事業を展開。平成12年4月の介護保険制度施行に伴い、指定居宅介護支援センター高喜苑を開設しました。

平成14年には、地域のニーズに合わせて、武岡の幹線道路沿いに「グループホーム武岡5丁目」を開設し、認知症高齢者のケアに取り組み始めました。

同時に今後の福祉サービスに従事する人材の育成を目的として、平成11年からホームヘルパー2級養成講座を開講。雇用能力開発機構からの委託事業として緊急・再雇用促進訓練の介護サービス科もスタート。更に平成13年からは、ホームヘルパー1級養成講座も開講。平成19年度開講までに、約1,800名が資格を取得しました。



グループホーム武岡5丁目

## 第2の拠点

平成14年8月、小野町にケアハウス「シルバーフラット武岡台」を開設。武岡台デイサービスセンター・ホームヘルプステーション高喜苑を併設。翌年には「グループホーム武岡ハイランド」を開設。更に居宅系事業所を統合した「済生会ケアステーション」を開設し、在宅系サービス事業所を一体的に運営する第2の拠点となりました。



シルバーフラット武岡台



武岡台デイサービスセンター

## 済生会初のサービス付き高齢者向け住宅

「地域包括ケアシステム」構築のための大きな柱として「サービス付き高齢者向け住宅」の整備が推進されたことと併せて、切れ目のないサービス提供を実現し、多様化する地域ニーズに対応するために、既存の特別養護老人ホーム高喜苑とケアハウスシルバーフラット武岡台の中間的役割を担う「済生会 なでしこの杜」を平成26年11月に開設しました。この事業は、済生会初の事業として注目されました。

これと同時に、同敷地内で運営していた「グループホーム武岡ハイランド(2ユニット)」を同建物内に移転し、快適な環境が整備されました。

高齢者が住み慣れた地域で最期まで生活を送れるように支援する「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」も平成25年にスタートさせ、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を包括的に提供できる体制が整いつつあります。



済生会 なでしこの杜

## これからの福祉センター

開設から20年かけて福祉センターは要支援・要介護者高齢者の支援を中心に事業を展開してきました。

今後は、高齢者だけではなく障がい者、子ども、母子、社会的孤立者等、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるように、共に生きる地域づくりをめざした済生会型地域包括ケア推進拠点となるよう、住民や地域のニーズを踏まえた事業を展開してまいります。

# 年表

平成 6年 8月	特別養護老人ホーム建築計画承認(鹿児島県支部)
平成 7年 7月	なでしこ訪問看護ステーション開設(鹿児島病院・職員数3名)
平成 8年 9月	特別養護老人ホーム着工
平成 9年 6月	竣工
7月	竣工式(於: 鹿児島サンロイヤルホテル)
8月	「済生会鹿児島地域福祉センター」開設(職員数34名) 特別養護老人ホーム高喜苑事業開始(定員66名/内短期入所16名) 在宅介護支援センター高喜苑(鹿児島市より受託)
9月	デイサービスセンター高喜苑・訪問給食センター高喜苑(鹿児島市より受託)
平成10年 1月	ホームヘルプステーション高喜苑(鹿児島市より受託)
9月	訪問入浴センター高喜苑(鹿児島市より受託)
平成11年 4月	訪問給食センター(高喜苑増設厨房)
10月	指定居宅介護支援センター開設 ホームヘルパー2級養成事業開始
平成12年 4月	介護保険制度スタート
平成13年 1月	軽費老人ホーム(ケアハウス) 建築計画承認(鹿児島県支部)
5月	緊急・再就職促進訓練(介護サービス科) 事業開始(雇用能力開発機構より受託)
10月	軽費老人ホーム(ケアハウス) 着工 ホームヘルパー1級養成事業開始
平成14年 8月	グループホーム武岡5丁目開設(定員9名)
9月	竣工/見学会・竣工式(於: 武岡台デイサービスセンター)
10月	シルバーフラット武岡台開設(定員40名) 武岡台デイサービスセンター開設(定員45名) によりデイサービスセンター高喜苑事業休止
平成15年 7月	グループホーム武岡ハイランド(定員9名)
平成16年 4月	グループホーム武岡ハイランド1ユニット増床(定員18名)
平成17年 4月	デイサービスセンター高喜苑再開(認知症高齢者対応型通所介護)
平成18年 7月	指定居宅介護支援センター武岡台開設(特定事業所)
平成19年 2月	地域包括支援センターへ移管のため在宅介護支援センター事業廃止
平成24年 11月	サービス付き高齢者向け住宅建築計画承認(鹿児島県支部)
平成25年 3月	指定居宅介護支援センター武岡台開設休止
4月	済生会サポートセンターなでしこ開設(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)
平成26年 2月	サービス付き高齢者向け住宅着工
10月	竣工/見学会・竣工式(於: 武岡台デイサービスセンター)
11月	済生会 なでしこの杜開設(サービス付き高齢者向け住宅) (40室)
平成29年 2月	生活援助員派遣事業開始(鹿児島市より受託)
平成29年 8月	創立20周年(職員数182名)

## 想いをつないで

済生会  
鹿児島地域福祉センター

向井 康子



平成9年8月に武岡の地に、鹿児島県済生会の福祉に懸ける熱い思いを込めて、一粒の小さな種が植えられました。あれから20年その種は一本の木に成長しました。

開設準備室から携わっていたこともあり、開設当初は毎日が試行錯誤の連続だったように記憶しています。一つの事業を立ち上げ軌道に乗せるまでの苦労や楽しさ、達成感など貴重な経験をさせていただきました。

時代を先読みしての事業展開に追いつけない時期もありましたが、福祉センターをここまで育ててくださった利用者・入所者やそのご家族、地域の皆様、済生会関係者及び鹿児島市をはじめとする関係各機関の皆様、けん引役として奮闘された歴代の所長、一緒に汗をかいた多くのスタッフに深く感謝申し上げます。

武岡の台地に根付いた一本の木に花が咲き、実を結びながら、さらに大きく成長し、多くの人々が木陰で憩うことができるような大樹になるように、設立当初の想いをつないで、みんなで大切に育てていきたいと思っております。

## 感謝の気持ちで、皆様の身体と心、 健康な暮らしを支えたい。

シルバーフラット武岡台

大迫 良代美



シルバーフラット武岡台(ケアハウス)は、平成14年に開設し今年で15周年を迎えることができました。これまでにご入居の方が約80名、今現在も40名の方が暮らしていらっしゃいます。これまで、大きな事故もなくこられたのも、偏にご入居頂いた皆様やご家族、ボランティア等でご支援いただいた皆様等のおかげと深く感謝申し上げます。

さて、入居者の皆様は、1日三回のお食事を規則正しく食べられます。また、10時には館内にラジオ体操の音楽が流れます。1階フロアーやお部屋で、思い思いに体操をされます。施設が計画する喫茶や歌声クラブ、映画鑑賞、外出行事、ボランティアによる慰問等も楽しめます。「以前は、家に独りで寂しいこともありましたが、周りの皆さんがいて楽しく過ごしています。ここに暮らして元気になりました。」とのお声をよく伺います。これからも、皆様が身体も心もお元気に暮らして頂きますよう、職員一同、感謝の気持ちを持ち、サポートさせて頂きたいと思っております。

## 地域福祉センターの在り方

済生会 なでしこの杜

出塩 千代子



2000年に介護保険制度が導入され、措置制度であった介護事業が利用者がサービスを選択でき、その受けたサービスの内容に応じて支払いをする、社会保険による契約制度へと転換されました。

17年が経過する中で、多様な事業所が介護事業に参入してきました。介護保険施設はもちろんのこと、有料老人ホームやサービス付高齢者向け住宅等の受け入れ施設、住宅等の増加は著しいものがあります。

当福祉センターもグループホーム、ケアハウス、サービス付高齢者向け住宅等、済生会組織の中ではいち早く着目し、取り組んできたところです。「きつい仕事」というイメージの介護の仕事離れと様々な事業所増加により、介護する側の減少がみられます。利用者にはもちろんのこと、働く側にも選ばれる福祉センターを目指して、目標をかかげ取り組んでいかなければならないと思っております。

高齢者が住みなれた地域で自分らしい人生を全うできるように「地域包括ケアシステム」の構築に向けて連携していくことが大切です。選ばれる福祉センターでありたい!!

## 【 創立20周年を 迎えることができました 】

済生会  
鹿児島地域福祉センター  
坂上 和弘



平成9年8月に開設以来、平成12年4月にスタートした介護保険制度導入から今日まで、制度変更の波を受けながらも「特別養護老人ホーム高喜苑」を始めとした13の事業が無事に20周年を迎えることができました。私が入職した平成14年10月は新拠点となる小野町に「軽費老人ホーム」「武岡台デイサービスセンター」が開設された年で事業拡大の真っ只中でした。以後15年の歳月をかけて福祉センターも大きく躍進してきました。これからの福祉センターは済生会の三つの目標を掲げながら、地域社会を支える保健・医療・福祉サービスが量的・質的にも一定の水準に達成できるような包括ケアシステム推進に向けた取組みが必要となってきます。これから益々、事業所のサービスの質が問われ、事業所間での競争が激化していく中で、地域生活を通して利用する側から選ばれる済生会であり続けなければならないと思います。私自身「済生会人」としての誇りを常に持ち、これからの福祉センターの発展に努めていきたいと思っています。

## 【 輝きをあとおして 】

グループホーム  
武岡ハイランド  
関 和代



グループホーム武岡ハイランドが設立された当時(平成16年4月2棟目)から配属され早13年経過しています。その間に高齢者を取り巻く状況が大幅に変化すると共に介護保険も4回改定し、入職当初、痴呆と呼ばれていた名称が認知症と代わり高齢者虐待防止・身体拘束廃止など確実に高齢者の尊厳を尊重し、介護保険と共に高齢者を擁護する体制が始まりました。グループホームも地域密着型サービス事業所として地域で地域住民として関わっています。これからの地域包括ケアシステムの構築に向かい、今後のグループホームとしての役割では、認知症専門者として相談や講和などを通して地域住民への啓蒙を行い、早期の受診治療を勧め、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になるという時代を前に認知症でも普通に安心して生活できる環境への支援に務めていきたいと考えております。

## 【 認知症ケアの 専門性を活かして… 】

特別養護老人ホーム  
高喜苑  
福崎 修也



高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加し、2025年には約700万人(65歳以上の高齢者のうち約5人に1人)と想定されています。認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症があっても、出来るだけその人らしく過ごすことができるような環境を整えることが必要です。

当法人内事業所においても認知症を抱える利用者は多く、それぞれの事業所で認知症ケアを実践しています。私は認知症ケア上級専門士として、専門職としての倫理観をよく理解し、認知症ケアの方法を自己の経験や科学的エビデンスに基づいて説明し、認知症ケアにおけるリーダーや指導者として適切なケアを実施していくとともに、認知症ケアに携わることご家族や職員についてもケアのあり方における指導や助言等、臨床的支援を行うことで、認知症ケアのスキルを高め、利用者にとってよりよい環境が構築できるように努めていきます。

さらには認知症ケアに関する地域のアドバイザーとしての社会的な責任を自覚し、専門的な立場で地域における認知症ケアのあり方を皆さんとともに考え、包括的な支援を目指して取り組んでいきます。

## その人らしさを大事に…

指定居宅介護支援センター  
高喜苑  
平山 孝子



2000年4月に介護保険制度が始まり17年目を迎えました。これまで多くの利用者様とご家族様に、マネジメントを通じて介護支援専門員として、また人として、多くのことを学ばせていただきました事に深く感謝致しております。

現在、指定居宅介護支援センター高喜苑には8名の介護支援専門員が在席しています。日々業務に追われる毎日ですが、お一人おひとりの利用者様と向き合うことに、努めて参りたいと考えています。

介護保険は3年毎に見直しや介護報酬の改定を行っています。平成30年には介護と医療のダブル改正の年となります。住み慣れた環境で末永くその人らしい生活を支援する地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の民生委員の方や医療機関・他職種との関係性を高める必要性を強く感じています。利用者様ご家族様には、世の中の動向を理解しわかりやすくご説明することで、安心して頂きその後の生活が穏やかに出来ますように一緒に考えて参りたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

## 20周年に寄せて

グループホーム  
武岡5丁目  
塩田 孝洋



福祉センターが20周年を迎え、私自身の事を振り返ってみると、ちょうど10年前に高喜苑にて採用していただきました。

現在はグループホームで、認知症の方々の支援をさせて頂いております。利用者の方々と共に生活していく中で、自分の力不足を感じる場面に悩んだりする反面、ふとした言葉に救われたりと、毎日が学びや気づきの連続であります。

これからも、入居者の思いに寄り添える支援を行っていけるように頑張っていかなければならないと思っております。

今後、日本は急速に高齢化率が進み、それに比例し、認知症を患う高齢者の方も増加していくことが見込まれています。そこで国(行政)は、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らしていける仕組み作りを掲げています。我が福祉センターでは、「共に生きる地域づくり」にむけて、地域住民の方々が主役となる連携の輪を広げております。グループホームは地域密着型サービスに位置づけられており、そのような仕組み作り的一端を担う役目があると考えております。今後も地域に根差して、地域に必要とされる事業所となるように微力ながら頑張っております。

## いつの時も その命に寄り添って

なでしこ  
訪問看護ステーション  
河野 貴子



なでしこ訪問看護ステーションは、平成7年済生会鹿児島病院併設にて開設。その後、平成9年に済生会地域福祉センター開設と共に武岡へ移転。訪問看護事業の役割を先駆的に展開してきたと自負しております。

これまでの20年で社会が変化し制度も大きく進化しています。

誰もが「自分らしく暮らしたい」という思いの中、核家族化等ライフスタイルの変化により家族だけで介護することが難しい状況になっています。生活の場も選択肢が広がり様々な環境の中で療養生活を送る利用者へ、訪問看護として専門性を求められる一方、多機能化を必要とされる事も感じています。

少子高齢化に伴い地域医療の一層の充実と、地域完結型医療の流れとして介護・医療・福祉が連携した地域包括ケアを実践する体制が求められています。

その様な中私たちは、地域の継続看護・地域包括ケアシステム実践の担い手としての自覚と、専門職として医療と生活の両視点を持ち、在宅医療の安定的な展開・医療と福祉の融合そして包括支援への展開へ繋げていきたいと日々の看護実践に当たっています。

なでしこ訪問看護ステーションは、どの様な健康状態においても最後まで住み慣れた地域社会で、利用者お一人お一人が尊厳を守られ、望まれる療養生活を安心して送れるよう、済生会精神に基づき命に寄り添う看護を目指します。

## ご利用者様の笑顔と共に・・・

武岡台デイサービスセンター

早川 博人



武岡台デイサービスセンターは、平成14年10月1日に事業を開始し、武岡・田上地区を中心に、鹿児島市内の各方面のご利用者様に支えられて、今年で、15周年を迎えました。武デイでは、ご利用者様の自立生活や在宅介護をサポートすることを前提に、食事や入浴、様々な活動メニューを提供しています。事業所の特徴は、天然温泉への入浴とご利用者様の心身機能に応じた様々な活動メニューの提供と考えており、ご利用者様からも高評を得られております。

ご利用者様の在宅生活を支える介護保険は、時代と共に、常に変革されてきています。最近では、要介護者や地域における弱者を地域全体で支えるケアが重要視されてきています。

我々は、デイサービス(通所介護)として、地域における役割を明確にし、的確に、役割を担える事業所にならなければなりません。15周年を迎えるにあたり、より一層の自己研鑽とケアの質の向上に職員一同で取り組んでいくことを決意し、ご利用者様の笑顔と共に成長していきたいと思っております。

## 使命感と感謝

訪問入浴センター高喜苑

早川 博人

訪問入浴センター高喜苑は、在宅で、入浴が困難なご利用者様の入浴行為を支えることを使命とし、ご自宅を訪問し、専用の車両に、浴槽と温泉を準備し、看護師、介護職員2名の計3名で、入浴サービスを提供しています。ご利用者様の中には、看取り時期に、サービスを開始し、1,2回の利用後に、永眠されることもあります。その際には、ご家族様より、「最後にお湯に入れてよかった」「最後に身体がきれいになってよかった」「お風呂が好きだったから、本人も喜んでいいる」などのありがたいお言葉をいただいたこともあります。

我々、職員は、ご利用者様の人生の最後にかかわることで、訪問入浴事業に対して、より強い使命感を抱き、ご利用者様からの感謝の言葉を胸に刻み、日々のサービス提供に努めています。今後も、入浴行為で得られる心身の健康と清潔感を提供して行きたいと思っています。

## 日常の生活をいつまでも

ホームヘルプステーション  
高喜苑

平原 聡子



当事業所は、平成10年1月5日、訪問介護サービス、障害福祉サービスを開設いたしました。日常生活にかかせない家事支援や身体介護などのサービスを提供することにより、ご利用者様がご自宅においてその有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を送ることができるように支援することを目的として参りました。

要介護状態であっても進行することを予防する、または現在の状態が極力悪化しないようにご利用者様の状況に合わせて住み慣れたご自宅で生活をしていくことができるよう、これからも支援して参りたいと思っております。

## 幸せな変わらない明日をすべての人に

済生会サポートセンター  
なでしこ

平原 聡子

済生会サポートセンターなでしこは、「定期巡回随時対応型訪問介護看護」を平成25年4月1日に開設致しました。ご利用者が可能な限りご自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、定期的な巡回や随時通報への対応など、利用者の心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを必要なタイミングで柔軟に提供します。また、サービスの提供にあたっては、訪問介護員だけでなく訪問看護とも連携しているので、介護と看護の一体的なサービス提供を受けることもできます。現在は主に「サービス付き高齢者向け住宅 なでしこの杜」を中心に支援しておりますが、今後は地域のご利用者様への支援へ展開することができるよう体制を整えていきたいと思っております。

買い物に行けない…  
足腰が弱ってきた

生活・介護のこと  
悩んでいませんか？

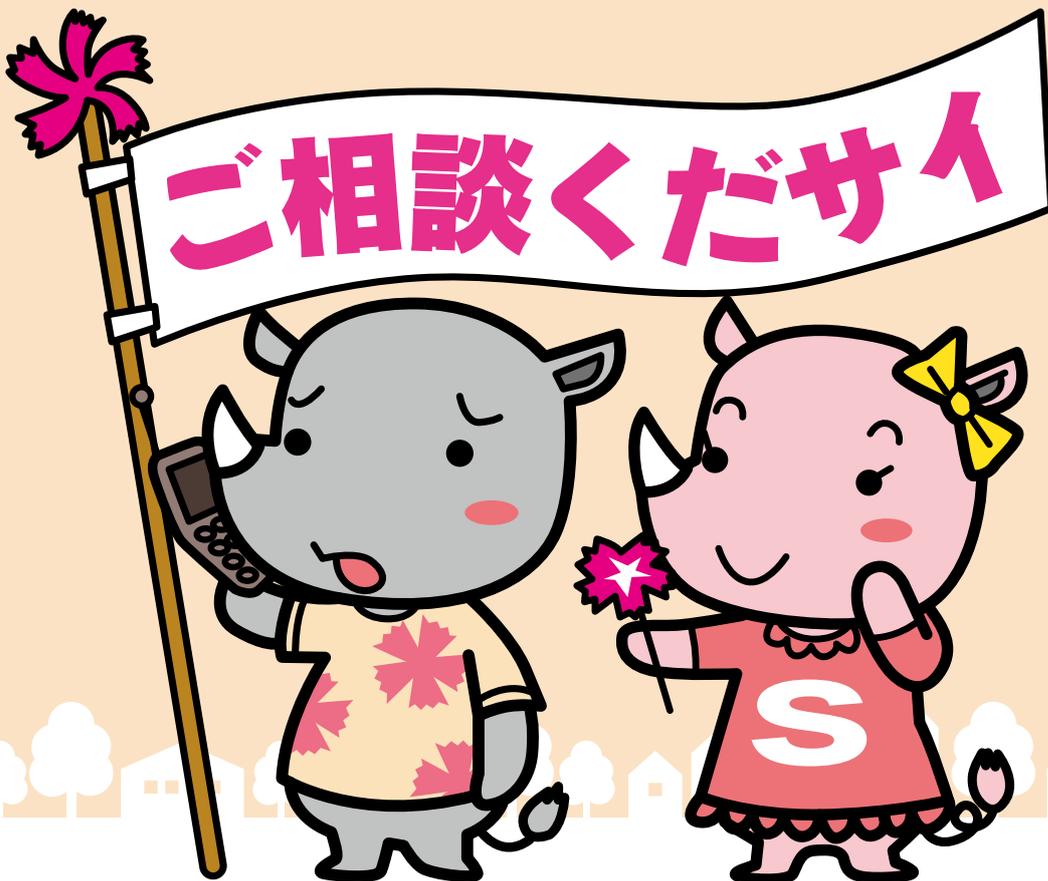
介護を受けたいけど  
手続きがわからない…  
施設ってどんなところ？



# 済生会



# 福祉相談所

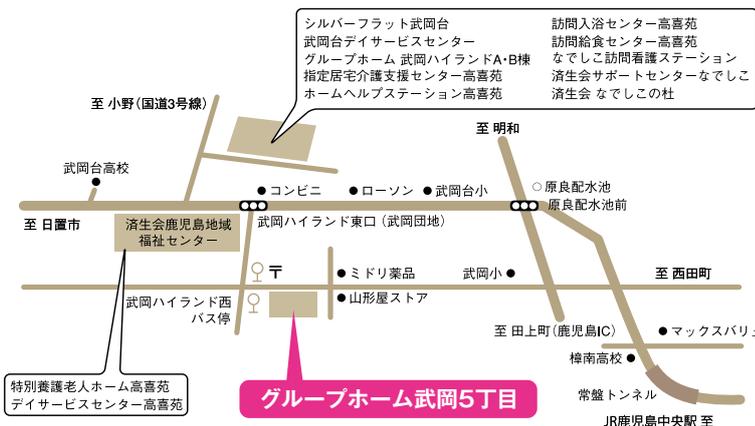


**日時** 毎週火曜日 午後1時～午後5時

**場所** グループホーム武岡5丁目  
〒890-0031  
鹿児島市武岡5丁目16番23号

**お問い合わせ**

**☎ 099-284-8250**



## 〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

### 〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

### 〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

#### 特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

#### シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム/ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

#### 済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-202-0710 **FAX** 099-283-4733

#### 指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

#### グループホーム武岡5丁目

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目16番23号

**TEL** 099-282-6081 **FAX** 099-283-3533

#### グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

#### 武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

#### デイサービスセンター 高喜苑

〔認知症対応型通所介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-284-8254 **FAX** 099-284-8255

#### なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

#### ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

#### 済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

#### 訪問入浴センター 高喜苑

〔指定訪問入浴介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

**TEL** 099-283-4731 **FAX** 099-283-4733

#### 訪問給食センター 高喜苑

〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-283-4730 **FAX** 099-284-8255

#### 鹿児島県済生会

〔支部〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

**TEL** 099-210-5460 **FAX** 099-210-5560

## 編集 後記

地域福祉センターは本年8月で20周年を迎えることができました。開設3年目に介護保険制度がスタート。介護保険対象事業を中心に徐々に拡張してきたものの、決して順風満帆といえるものではなく、地域の皆様の力強い支えと、職員の不断の努力によってようやくここまで来られたというのが率直な思いです。これからも「皆様の幸せを守るために」を合言葉に次世代に向けた新たな一歩を踏み出していきます。